『増補改訂 本願寺史』第4巻刊行にあたって（第6回）

第五章　新たな布教の展開と教化団体 その概要

本願寺出版社より刊行しました『増補改訂 本願寺史』第4巻第五章では、戦後における本願寺の布教制度と各種教化団体について次の構成で書いています。

一　布教組織の展開
二　都市・団地などへの伝道
三　仏教婦人会総連盟
四　仏教青年連盟
五　日曜学校・少年連盟
六　スカウト指導者会
七　仏教壮年会連盟
八　連続研修会・門徒推進員制度
九　地域の教化団体の結成

第4巻全体としては、2000（平成12）年までの教団の動きを中心に執筆しましたが、教化団体については、現在の活動内容を鑑みて、それ以降についても、一部執筆しました。以下、各節の内容を概括します。

▼布教組織の展開

戦後の布教組織がどのように変化・展開していったのか、各種規程を中心にその変遷をたどっています。

国内伝道は、1961（昭和36）年の親鸞聖人七〇〇回大遠忌法要が転機となり、地方に重点を置いたものへと変わっていきました。またこのころは、高度経済成長にともなう社会変化への対応が、新たな課題となっていった時期でもあり、伝道方法も多様化していきました。

▼都市・団地などへの伝道

1955（昭和30）年以降誕生した団地や大阪千里（吹田市・豊中市）や泉北（堺市・和泉市）などのニュータウンといった、従来とは異なる生活環境への伝道・布教が新たに始められました。

首都圏を中心とする都市部では、新たな門信徒獲得のための布教所開設などの都市開教、離郷門信徒への布教など、新たな布教態勢・対策が進められています。

▼仏教婦人会総連盟

本願寺教化団体の中で、最も認可単位数が多いのが、仏教婦人会総連盟です。海外開教区の婦人会とも連携し、4年に一度、世界仏教婦人会大会を開催するな

ど、活発な活動をしています。

１９６５（昭和40）年に２月の第２日曜日を社会的実践活動を実施する「ダーナの日」、１９８６（昭和61）年に４月25日を平和について考える「平和の日」と定めるなど、社会と関わる独自の活動も展開しています。

２０１８（平成30）年には、現代女性の生き方の多様性に考慮した内容・表現の新たな綱領が定められました。

▼仏教青年連盟

仏教青年会は、仏教婦人会とともに明治時代からの長い歴史と伝統を持つ教化団体です。

１９４７（昭和22）年、戦後の新たな時代に即応した教化団体として、組織再編され、仏教青年総連盟が結成。その後、改組して仏教青年連合会が発足しました。１９６６（昭和41）年に仏教青年連盟となります。

全教区に仏教青年教区連盟が結成され、全国を六つ（現在は五つ）のブロックに分け、ブロックごとに活動を進めています。

連盟は、機関誌「まこと」の発行、教材の作成・頒布、研修会、本山成人式の奨励など、中央組織と各教区連盟とのパイプ役を務めています。

▼日曜学校・少年連盟

戦前から在家の少年を中心に活動が行われ、１９６０（昭和35）年に日曜学校連盟が結成。１９８０（昭和55）年に少年連盟と改称し、規約の発布にともない、本願寺派所属団体として位置づけられ、現代社会に即応した少年教化活動を進めることになりました。

在家門信徒の少年を中心とした活動を続けていますが、近年の少子化など、子どもを取り巻く環境の変化により、事業の変遷を重ねながら推進されています。

▼スカウト指導者会

本願寺の教化組織の一つですが、ボーイスカウト日本連盟という外部組織にも所属する２面性があるのが特徴です。

１９２７（昭和２）年、仏教教団が設立した初のボーイスカウト団である龍谷少年団が結成されました。しかし、戦時下にあっては学徒出陣などのために、活動を中止せざるを得ない状況となりました。１９４８（昭和23）年には、戦後初の本願寺派ボーイスカウト指導者会が開催されるなど、活動が再開。１９５３（昭和28）年には、本願寺直轄のスカウト団（京都第23団）も結成されました。

活動は、平素は自身の所属するスカウト団でのスカウト活動や仏教章取得のための研修が中心ですが、スカウトキャンポリーといった宗派内の活動以外に、日本ジャンボリー大会のように、他宗派・他宗教といった人たちと交流するなど、多岐にわたっています。

▼仏教壮年会連盟

１９６１（昭和36）年の大遠忌を機に、30歳以上を対象とした仏教壮年会組織づくりが進められました。

１９７５（昭和50）年に全国仏教壮年会議が結成され、２００８（平成20）年に連盟組織へと発展。自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、「ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざす」ことを綱領に掲げ、活動をしています。

▼連続研修会・門徒推進員制度

１９６２（昭和37）年より始まった門信徒会運動は、僧侶・門信徒の立場を超え全員が聞法の座につき、全員が伝道に参加する「全員聞法・全員伝道」を目標に掲げ活動を展開してきました。そして地方において、門信徒の間で法座活動を進める門徒推進員養成連続研修会（連研）が１９７８（昭和53）年から実施されました。

地方連研・中央教修を終了した門徒が、門徒推進員として、僧侶・門信徒ともに「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）に取り組んでいます。

▼地域の教化団体の結成

１９７３（昭和48）年の宗祖御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇年を控えて、広く社会に開かれた教団をめざし、政・財・文化の各界で活躍する人に宗祖の教えを再認識してもらおうという動きが始まりました。

そして、門信徒出身国会議員の聞法の会「築地聞真会」や、本派僧侶による地方自治体首長・議員の「龍谷顕真会」、各地の経済界人を中心とする聞法の会である「築地あすなろ会」、「北御堂いちょうの会」、「北陸藤の会」、「中京あけぼの会」、また「拓心会」が結成されました。

宗門の抱える問題が多様化していくなか、教化団体も、少子高齢化・過疎化といった、活動の担い手不足が深刻な問題となっています。門信徒が少年から壮年まで続けてお寺と関わり、ともに活動できる場を継続するための新たな方策が求められています。

本願寺史料研究所

『増補改訂 本願寺史』第４巻
８８００円（税込・送料別）
Ａ５判、908ページ
※ご注文は**本願寺出版社**まで